

# 水たまた

通巻 第21号



新春の社頭

## 頌春

宮司 竹間 宗麿

平成二十四年壬辰の年頭を寿ぎ、謹んで御皇室の弥栄と国家の安泰並びに御崇敬各位のご清福をお祈り申し上げます。

旧年は春に未曾有の東日本大震災及び原子力発電所の事故、秋には台風豪雨等による災害に見舞われ、悲しみの多き年でありました。

この災害に対し立ち上がり復興せんと、天皇皇后両陛下を始め御皇室のお姿、被災者、地元自治体・警察・自衛隊や多くのボランティアの方々による懸命なる活動を私もは忘れてはなりません。他人事ではなく己の出来事と受け止めることが必要です。わが日本に限らず、世界各地でも自然の猛威による大災害が起きております。

科学・文明の発達、人類の利便性を追求するあまりに、もたらされる苦難でしょうか。

さて、高良大社では、平成四年以来の御神幸祭をこの秋に斎行いたします。

御崇敬の皆様とともに、この御神幸祭をお仕え致したく、御参加・御協力を切にお願い申し上げます。

お山から神様がお下りなられまして、地域の皆様を始め多くの方々「御神縁」を深め、更なる皆様方の「人の縁」が深まることと存じます。

新年を迎え、今年こそは国家国民が、そして全世界の国々・人々が平穏に恙なく在るように「祈り」の根源を求めていきたいと存じます。

皆様にとりまして、すばらしき佳き年でありませう、心からご祈念申し上げます。

# 祭事のご案内 (二月)

■ 玉替祭 一月九日

江戸時代からの伝統祭事である玉替祭は、その年の運を占う宝珠みくじの授与があり、幸運を授からんと祭典の始まる前から多くのお参りがあります。

高良大神様の御神徳を表す潮干珠・潮満珠の大きな宝珠も年に一度境内にお出ましになり、両手で触れたり、持ち上げたりと開運を願う参拝者で賑わいます。宝珠みくじ授与 初穂料五〇〇円 午前九時よりの祭典終了後より おおよそ正午まで



宝珠みくじ授与

■ 鏡開祭 一月二十一日

お正月に御本社を始め高良山内外のお社へお供えした鏡餅を開く祭典で、昔は厄除大祭とも称しました。

大寒のこの日境内では、温かい善哉がふるまわれ、開かれたお餅を焼く方々で賑わいます。又厄除祈願・還暦祝いのお参りがあり、除厄長寿を修した延命餅が当日祈願を申込まれた方々に授与されます。



宮司、還暦祝いの参拝者による鏡開き

## 祈願祭のご案内

一年の計は元旦にあり 歳の始めに家内安全・事業繁栄・厄除等の御祈願をお受け戴き、此の一年が皆様にとりまして幸多き歳となりますよう御案内致します。又お正月に限らず、月初め・年度初め、年間を通してお受け致しております。

高良の大神様は古くより厄除・延命長寿の靈験あらたかさとされており、生活万般を御守護下さる神様と広く信仰されております。

### 〔祈願種目〕

- 家内安全 ● 商売繁盛
  - 厄年祓 ● 還暦算賀
  - 交通安全 ● 諸障退散
  - 身体健康 ● 傷病平癒
  - 子宝恵授 ● 安産子育
  - 初宮詣 ● 七五三詣
  - 学業成就 ● 受験合格
- ※その他願意も御相談下さい
- ※祈願初穂料 個人五千元以上 団体一万円以上

平成二十四年厄年一覧(年齢は数え年です)

生まれ年	男性	生まれ年	女性
昭和二十六年	62才厄明	昭和五十年	38才厄明
昭和二十七年	61才厄祓	昭和五十一年	37才厄祓
昭和二十八年	60才厄入	昭和五十二年	36才厄入
昭和二十九年	60才厄明	昭和五十三年	36才厄明
昭和三十年	60才厄祓	昭和五十四年	34才厄明
昭和三十一年	60才厄入	昭和五十五年	33才厄祓
昭和三十二年	60才厄明	昭和五十六年	32才厄入
昭和三十三年	60才厄祓	昭和五十七年	32才厄明
昭和三十四年	60才厄入	昭和五十八年	32才厄祓
昭和三十五年	60才厄明	昭和五十九年	32才厄入
昭和三十六年	60才厄祓	昭和六十年	32才厄明
昭和三十七年	60才厄入	昭和六十一年	32才厄祓
昭和三十八年	60才厄明	昭和六十二年	32才厄入
昭和三十九年	60才厄祓	昭和六十三年	32才厄明
昭和四十年	60才厄入	昭和六十四年	32才厄祓
昭和四十一年	60才厄明	昭和六十五年	32才厄入
昭和四十二年	60才厄祓	昭和六十六年	32才厄明
昭和四十三年	60才厄入	昭和六十七年	32才厄祓
昭和四十四年	60才厄明	昭和六十八年	32才厄入
昭和四十五年	60才厄祓	昭和六十九年	32才厄明
昭和四十六年	60才厄入	昭和七十年	32才厄祓
昭和四十七年	60才厄明	昭和七十一年	32才厄入
昭和四十八年	60才厄祓	昭和七十二年	32才厄明
昭和四十九年	60才厄入	昭和七十三年	32才厄祓
昭和五十年	60才厄明	昭和七十四年	32才厄入
昭和五十一年	60才厄祓	昭和七十五年	32才厄明
昭和五十二年	60才厄入	昭和七十六年	32才厄祓
昭和五十三年	60才厄明	昭和七十七年	32才厄入
昭和五十四年	60才厄祓	昭和七十八年	32才厄明
昭和五十五年	60才厄入	昭和七十九年	32才厄祓
昭和五十六年	60才厄明	昭和八十年	32才厄入
昭和五十七年	60才厄祓	昭和八十一年	32才厄明
昭和五十八年	60才厄入	昭和八十二年	32才厄祓
昭和五十九年	60才厄明	昭和八十三年	32才厄入
昭和六十年	60才厄祓	昭和八十四年	32才厄明
昭和六十一年	60才厄入	昭和八十五年	32才厄祓
昭和六十二年	60才厄明	昭和八十六年	32才厄入
昭和六十三年	60才厄祓	昭和八十七年	32才厄明
昭和六十四年	60才厄入	昭和八十八年	32才厄祓
昭和六十五年	60才厄明	昭和八十九年	32才厄入
昭和六十六年	60才厄祓	昭和九十年	32才厄明
昭和六十七年	60才厄入	昭和九十一年	32才厄祓
昭和六十八年	60才厄明	昭和九十二年	32才厄入
昭和六十九年	60才厄祓	昭和九十三年	32才厄明
昭和七十年	60才厄入	昭和九十四年	32才厄祓
昭和七十一年	60才厄明	昭和九十五年	32才厄入
昭和七十二年	60才厄祓	昭和九十六年	32才厄明
昭和七十三年	60才厄入	昭和九十七年	32才厄祓
昭和七十四年	60才厄明	昭和九十八年	32才厄入
昭和七十五年	60才厄祓	昭和九十九年	32才厄明
昭和七十六年	60才厄入	平成元年	32才厄祓
昭和七十七年	60才厄明	平成二年	32才厄入
昭和七十八年	60才厄祓	平成三年	32才厄明
昭和七十九年	60才厄入	平成四年	32才厄祓
昭和八十年	60才厄明	平成五年	32才厄入
昭和八十一年	60才厄祓	平成六年	32才厄明
昭和八十二年	60才厄入	平成七年	32才厄祓
昭和八十三年	60才厄明	平成八年	32才厄入
昭和八十四年	60才厄祓	平成九年	32才厄明
昭和八十五年	60才厄入	平成十年	32才厄祓
昭和八十六年	60才厄明	平成十一年	32才厄入
昭和八十七年	60才厄祓	平成十二年	32才厄明
昭和八十八年	60才厄入	平成十三年	32才厄祓
昭和八十九年	60才厄明	平成十四年	32才厄入
昭和九十年	60才厄祓	平成十五年	32才厄明
昭和九十一年	60才厄入	平成十六年	32才厄祓
昭和九十二年	60才厄明	平成十七年	32才厄入
昭和九十二年	60才厄祓	平成十八年	32才厄明
昭和九十二年	60才厄入	平成十九年	32才厄祓
昭和九十二年	60才厄明	平成二十年	32才厄入
昭和九十二年	60才厄祓	平成二十一年	32才厄明
昭和九十二年	60才厄入	平成二十二年	32才厄祓
昭和九十二年	60才厄明	平成二十三年	32才厄入
昭和九十二年	60才厄祓	平成二十四年	32才厄明

※厄年に関わらず、厄除祈願もいたしております

## 謹賀新年

高良大社

代表役員 宮司 竹間 宗磨  
責任役員 飯笹 実

同 前川 博  
同 川村 謙二  
同 赤司 昌生  
同 大石 義明  
同 包行 良人  
同 緒方 義範  
同 永瀧 俊毅  
同 渡辺 徹也  
同 黒岩 延峰  
同 彌永 光弘  
同 喜多村 禎勇  
相談役 平田 幸治

# 秋の祭事のご報告

## 高良山くんち

十月九日(日)

◆ 神生祭 午前零時

高良の大神様のご神威を新たに戴く「神生(かんあれ)祭」が山内にて厳粛に斎行されました。

◆ 例大祭 午前十時半

当社最重儀の祭典です。

神賑として、久留米喜多流奉賛会による謡曲や高良山十景舞保存会による舞が奉納されました。また、境内にて神影流心気道の古武道棒術、北野町有志によるコーラス合唱、南筑高校太鼓部による和太鼓などが奉納されました。



民謡・日本民謡協会大川支部鐘ヶ江社中



和太鼓奉納 南筑高校太鼓部

◆ 崇敬会大祭 午前十時半

崇敬会員の皆様が日頃の御神恩に感謝し、さらなる大神様の御加護を祈念しました。また表千家不白流奉仕による献茶式が奉納され、境内では参拝者に薄茶の接待がありました。

◆ 弓道大会

小笠原流弓馬術同門会による「百々手式」が境内特設弓道会場にて奉納された後、第四十一回高良山弓道大会が開催されました。さらに、多くの神賑行事で境内はおおいに賑わいました。

御井町風流

御井町風流保存会

空手奉納演舞

新極真会佐賀筑後支部久留米道場

舞楽奉納

香椎宮雅楽保存会

和太鼓奉納

筑水高校太鼓部

吹奏楽奉納

南筑高校吹奏楽部

横手神楽

佐賀県杵島郡白石町有志



舞楽奉納 香椎宮雅楽保存会

◆ 十月十日(火)

観月祭 午後六時  
天候に恵まれ満月の下でのお祭

りとなりました。祭典の後、中村雅

楽美師による箏曲、筑前琵琶保

存会による琵琶、錦城流加藤城勲

師による吟詠が奉納されました。

その後場所を境内特設舞台に移し、

神賑行事が催され、参拝者は爽秋

の夜の趣き深き一時を楽しみました。

◆ 箏曲 生田流正派

久遠太鼓 立正佼成会

久留米にわか 久留米にわか

保存会日吉ぎんなん社中

柳川日吉太鼓 柳川日吉神社

雅楽 御井町雅楽同好会

御茶席 表千家北村宗孝社中



柳川日吉太鼓 柳川日吉神社

## その他の神賑行事

九月二十三日(金)

第十一回高良山剣道大会

高良山剣道大会実行委員会

九月三十日(金)～十月二日(日)

第十二回さつき盆栽秋季展

さつき盆栽趣味の会

十月九日(日)～十一日(火)

第十二回嵯峨御流生け花展

嵯峨御流諸岡社中

占いコーナー 松野ルミ氏

## 山川招魂社秋季大祭

十月二十日には兼務社の山川招魂社の秋季大祭が行なわれました。招魂所として、明治二年に久留米藩主・有馬頼成公により創建された山川招魂社は、高山彦九郎・真木和泉守・稻次正訓をはじめとして、明治維新の大業に身を捧げた久留米藩士たちをお祀りしたのが始まりです。そのほか明治以後の戦役で命を落とされた旧久留米藩領出身者の御英霊も合祀されている歴史ある社です。

当日は天候にも恵まれ、楢原利則久留米市長、原口剣生福岡県議会議長ら来賓の皆様をはじめ、遺族会や地域の方々が多数ご参拝され、盛大に秋季大祭を執り行うことができました。大祭終了後には、英霊の社の前に奉納銃剣道大会が催され、御鎮座の茶臼山には夕方まで気魄のこもる掛け声が響いていました。

毎年十月二十日の山川招魂社秋季大祭には、英霊の御遺族だけでなく、どなたでもご参列いただけます。近代日本の礎となられた郷土の先人の御前に、感謝の誠を捧げにお参りください。



# 献酒献樽・献饌・献灯者芳名 (敬称略)

## ◆ 献酒献樽・献饌者芳名

新玉の年の初めに御神前への真心からなるご奉納を戴きました。

朝風 朝風酒造株式会社  
 福徳長 福徳長酒類株式会社  
 瑞穂錦 瑞穂錦酒造株式会社  
 鷹正宗 鷹正宗株式会社  
 千年乃松 千年乃松酒造株式会社  
 庭の鶯 合名会社山口酒造場  
 山の壽 山の壽酒造株式会社  
 三井の寿 井上合名会社  
 飛龍 飛龍酒造株式会社  
 若の壽 合名会社若竹屋酒造場  
 紅乙女 株式会社紅乙女酒造  
 磯乃澤 株式会社いそのさわ  
 喜多屋 株式会社喜多屋  
 繁榊 株式会社高橋商店  
 杜氏の詩 株式会社杜の蔵  
 萬年亀 萬年亀酒造株式会社  
 池亀 池亀酒造株式会社  
 花の露 株式会社花の露  
 比翼鶴 比翼鶴酒造株式会社  
 国の寿 目野酒造株式会社  
 若波 若波酒造合名会社  
 天吹 天吹酒造合資会社  
 鮮魚 久留米魚市場  
 野菜果物 久留米青果市場  
 味噌 大石みそ本店

## ◆ 献灯者芳名

ご崇敬各位より参道本坂両側に掲げる灯籠をご奉納戴きました。

中央製袋株式会社  
 ブリヂェストーン久留米工場  
 ムーンスター  
 井樋建設株式会社  
 アサヒコーポレーション  
 大石みそ本店  
 福岡酸素株式会社  
 西井塗料産業株式会社  
 喜多村石油株式会社  
 ニシケン  
 大電株式会社  
 エサキ自動車  
 彌永税理士事務所  
 文殊保育園  
 木のぬくもり館  
 中川建材株式会社  
 えがみ塗装  
 九州防水株式会社  
 りくだい株式会社  
 九州電力株式会社  
 西日本シティ銀行  
 てしま整骨院  
 幸鮎  
 有限会社御井地所  
 株式会社キューセツ  
 ツジ胃腸科医院  
 ツジ胃腸内科医院

明星苑コスモス  
 グループホームこすもす  
 ケアハウスコスモス21  
 種商  
 石丸カバン店  
 田島運送

株式会社大久保建設  
 重枝 康生  
 重枝 葉子  
 株式会社中島田鉄工所  
 大至産業有限公司  
 株式会社キョードー仮設  
 渡辺プロパングス  
 秋吉内科  
 井手運送  
 西日本企画サービス  
 サクラみそ食品株式会社  
 衛専株式会社  
 木匠 中村建設  
 津福工業  
 丸永製菓株式会社  
 とまと運送  
 森光 健  
 有限会社筑陽電設  
 大洋工務店  
 大牟田自然を守る会  
 権藤写真館  
 ヒエダ袋物加工店  
 株式会社十八防災システム  
 上野クリーニング  
 最所産業  
 日吉プリント  
 株式会社筑水管材  
 角消防設備株式会社

株式会社みのう  
 太陽住設  
 古賀塗装店  
 株式会社近藤建設  
 ミスタージョージ  
 石井ガス機器  
 森山整形外科院  
 杉村設備  
 立山自動車工業  
 京屋  
 藤山自動車  
 宮原運輸  
 坂田ガス住設  
 必勝堂  
 夕悠  
 大和クレイン  
 小坂自動車  
 SUN & MOON  
 しやぶ源  
 中村畜産  
 株式会社山下地所  
 赤坂食料品店  
 御井町郵便局  
 島機械センター  
 姫野酒店  
 姫野パークインビル  
 香和印刷  
 やなぎ亭  
 キンジヨウ  
 有限会社マイスター  
 有限会社末崎計量器  
 天勝  
 吉金菓子舗  
 SIC  
 木下楽器店  
 デュオ  
 久留米紙器工業株式会社  
 宗右衛門寿司

# 献米世話人芳名 (敬称略)

実りの秋を迎え御初穂の御奉納をお世話いただきました。

久留米市農業協同組合  
福岡大城農業協同組合  
福岡八女農業協同組合  
三潞町農業協同組合  
にじ農業協同組合  
みい農業協同組合  
JAぐるめ南部支店  
御井町実行組合  
宗崎 諸富 正男  
高良山 橋口 和實  
上町 中島 智徳  
府中 青柳 佳明  
矢取 堤 和信  
高良内農事組合  
1の西 古賀 誠一  
1の東 古賀 恒喜  
2の西 藤吉 和弘  
2の東 丸山 和博  
3の上 福田 南  
3の下 草場 義雄  
水車谷 川口 康博  
杉谷 小椎尾 徳寿  
5の西 古賀 政好  
5の東 古賀 福憲  
6の1 田中 富雄  
6の2 中野 徳彦  
内野 梅野 ヒ口子  
柳ノ瀬 草場 浩一

太郎原町代表 尾畠 史郎  
1班 早田 正博  
2班 鶴一 徳  
3班 川原 信次  
4班 上堤 富男  
中央班 野瀬 健勝  
5班 平田 澄博  
6班 早田 重幸  
7班 廣田 利盛  
8班 大石 久  
9班 大鶴 正則  
山川町本村 豊福 政美  
山川町栗林 岡 英一郎  
山川町竹の子 近藤 義直  
山川安居野 豊福 勝則  
菊地 正義  
稲吉 重雄  
山川追分 豊福 芳郎  
鹿子嶋 省三  
野村 真  
野村 静男  
鹿子嶋 豊記  
豊福 泰正  
稲益 正弘  
矢ヶ部 作  
山下 照之  
豊福 悦子

山田野口町 池田 健治  
豊福 政昭  
中野 義彦  
近藤 晃  
池田 良光  
近藤 哲夫  
豊福 孝利  
木本 実千代  
鹿毛 俊三  
荒木 秀雄  
執行 哲  
榎原 繁利  
寺崎 利信  
中尾 英治  
豊福 勝之  
大坪 弘文  
古賀 正臣  
古賀 義太  
熊添 利男  
岩村 順一  
佐藤 富一  
柳瀬 磨  
中村 康胤  
益永 順章  
高田 幸雄  
神代 博陞  
宮崎 安博  
徳山 正久  
牛原 龍二  
中村 繁幸  
中村 芳隆  
清水 清人  
深堀 春樹

山川神代  
山川町城  
東合川町  
長門石町  
藤山町上村  
藤山町下村  
藤光町  
大橋町  
宮ノ陣町  
上津町  
三潞町西牟田



大善寺町 金栗 忠義  
八女郡広川町 稲員 均  
末安 良行  
加藤田九洲男  
八女市長野 橋山 茂雄  
池田 甲己  
下川 好成  
中村 信嘉  
中村 典幸  
藤井 勉  
田中 藤代次  
石橋 勝  
川崎 正明  
山口 善巳  
田島 隆一

# 兼務社紹介

## 八幡神社

御祭神

應神天皇

鎮座地

久留米市高良内町八七六番地  
八幡神社は高良内三町内の氏神としてお祀りされています。

創建の年代は不明ですが十二代景行天皇九州巡幸の御滞座跡地と伝えられその地に八幡の神をお祀りしたとされています。

祭事は例年三回行われ夏祭には子供達が集まりお祓いを受け、神輿が町内を巡り、境内では様々な奉納行事など行われ賑わいます。



## 赤星神社

御祭神

筑紫弦田物部御祖天津赤星命

鎮座地

久留米市高良内町七五九番地  
赤星神社は高良内一町内の氏神としてお祀りされています。

創建ははっきりしません江戸時代には鎮座されお祀りされております。

秋祭には一軒の氏子の家を定めて、氏子たちが集まり注連縄を緋い、神社に奉納し祭典を行った後、戻り直会を行いその家には、赤星神社の御分霊を一年間お祀りするなど古い慣わしが多く残る神社です。



## ご奉納・山内奉仕活動のご報告

崇敬会会員の皆様方のご篤志奉賛により左記の通り調整致しました。

### ● 鈴緒 一具

敬神の念篤き久留米市原古賀町東建工業株式会社代表取締役古賀重年様より社殿向拝の鈴緒の更新ご奉納を戴きました。

### ● 大注連縄 一具

この度新春を迎えるに当たり篤信家某氏により御社殿の大注連縄のご奉納と相成りました。



奉納 大注連縄と鈴緒

● 参拝者の不測の事態に備えて自動体外式除細動器(AED)を設置しました。久留米消防署出張所係官の派遣指導により、十二月一日、防火防災を祈る鎮火祭奉仕ののち、消防訓練及びAEDの取扱方法の実習、救急講習会を開催し、神社職員全員が受講いたしました。

● お正月及びおくんちに御社殿を飾る大提灯一對を新調致しました。

● 久留米市山川町の福岡県立筑水高等学校により実習を兼ねて久留米つつじ原木群の調査及び手入れが実施されました。

● 境内、末社、手水舎及び施設、トイレなどの清掃を毎週或いは毎月と毎々有志の方々にご奉仕戴いております。

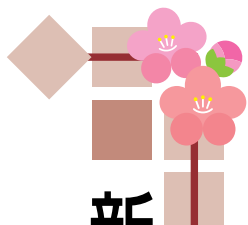
● 新春を迎えるにあたり境内、参道ほかの清掃を各団体にご奉仕戴きました。

- 高良山の緑と史跡を守る会
- 御井校区老人クラブ連合会
- 高良山の森と環境を守る会
- 明るい社会づくり運動県南区協議会
- 高良大社奉賛青壮年会

## 高良大社社号塔建設工事地鎮祭執行

高良山麓に新設中の外郭環状道路「東合川野伏間線」の工事に併わせ、高良大社入口交差点に「高良大社社号塔」の建設を計画してまいりました。

御神徳の宣揚の象徴と参拝道案内の標識となすべく十二月二十六日に、責任役員・監査役の参列の下、地鎮祭を執行いたしました。完成は本年二月末日の予定で、三月の道路開通時には、ご参拝の皆様をお迎えいたします。



# 新年のむすび

高良大社崇敬会

会長 井手 和英

新年明けましておめでとうござ  
います。

崇敬会会員の皆様には、明るい希  
望に満ちた新しい年をお迎えのこ  
ととお慶び申し上げます。

お蔭さまで、当会も創立五年目を  
迎え、会の活動も軌道に乗ってま  
いました。これも偏に役員の皆様を  
はじめ会員の皆様の温かいご支援、  
ご協力の賜物と心より感謝申し上  
げます。

昨年は世界の各地で、これまで経  
験したことのないような大きな災  
害や困難な問題が発生し、世界中が  
不安と動揺に包まれた一年でした。  
我国では、長年に亘るデフレ社会か  
らの回復が期待された明るい年の  
幕開けでしたが、三月十一日に起き  
た東日本大震災、それに伴う福島第  
一原発事故により未曾有の被害が  
もたらされ、悲しみと苦しみに喘  
いだ一年でした。その上、EU諸国の  
財政悪化や信用不安により、円高や  
株安が一段と進み、震災復興の足を  
引っ張ることとなり、昨年は我国社  
会にとって本当に厳しい年でした。  
しかしながらそのような中にあ  
つて、被災地の皆様の強い忍耐力や

規律正しい行動、互に助け合う姿に、  
世界中の人々が強い感銘を受け、日  
本人の素晴らしい国民性が改めて  
高い称賛を得たことは喜ばしい限  
りでありませぬ。このことは我々日本  
人が幼い頃から神社仏閣を訪れ、神  
仏を敬う精神を培ってきたことに  
よるものと思われませぬ。

さて、崇敬会では昨年次のような  
事業を行ないました。

- (一) 会員の研修と親睦を兼ねて二月二十五日、二十六日に一泊二日の行程で伊勢・熱田両神宮の参拝旅行を実施いたしました。平成二十五年の式年遷宮を控え、様々な祭典や行事の一端を拝見し、改めて敬神崇祖の気持を高めることが出来ました。なお、本年度以降も各地の神社をめぐる研修旅行を計画いたしました。
- (二) 高良大社境内の整備事業として大社正面階段を登った左側にあ  
る石灯笼・玉垣・石垣の修復工  
事を行ないました。
- (三) 十月十日に崇敬会大祭を斎行  
いたしました。その祭典の中で例  
年どおり奉賛金を大社に奉納いた  
しました。当日は終日境内で神賑  
行事が行なわれ楽しいひと時を  
過ごすことが出来ました。毎年、高  
良大社「おくんち」のなか日に斎  
行することといたしてあります。  
会員の皆様の更なる参列をお願  
いいたします。

- (四) 会の基盤を強固にし、更に高良大  
社の発展に寄与できるよう、会員  
増強のための新会員紹介運動を  
実施いたしました。お蔭さまで会  
員は徐々に増加しております。現  
在五百二十名程となっております。  
引き続き新会員のご紹介をお願  
いいたします。

本年度は、新たな事業として、秋  
に大社側で計画いたしました。秋  
神幸祭の斎行を積極的に支援いた  
したいと考えております。この度の  
神幸祭は、五十年に一度斎行されま  
す御神期大祭(前回は平成四年に斎行)  
の規模を縮小した形式で行なう予  
定です。高良玉垂神輿三基のうち一  
基に高良山麓にお降りいただき、麓  
の幾つかの神社を巡り、再び高良大  
社へお戻りいただく一日のお神幸  
行事を計画中であります。斎行にあ  
たって会員の皆様に多大なご支援、  
ご協力をお願いすることになるか  
と思っております。その節には何卒よろし  
くお願い申し上げます。また大社で  
は今年三月に、高良山麓バイパスの  
開通に合わせて高良大社社号塔の建  
設を進めております。本件に関しま  
しても会員の皆様に何かとご支援  
をお願いいたしておりますがご協  
力のほどよろしくお願い申し上げ  
ます。

本年こそは、千支の壬辰に因んで、  
明るい新しい動きが出てくること  
を大いに期待したいものです。会員  
皆様のこの一年間のご健勝とご活  
躍を祈念申し上げます。

## 高良大社崇敬会

会長 井手 和英  
副会長 倉田 正平

同 橋本 安彦  
同 松本 祥勝  
同 高本 武治  
同 井手 紀夫  
同 石丸 浩一

同 堤橋 稔幸  
同 津福 信子  
同 酒井 達朗

同 野田 清一郎  
同 御船 敦子  
同 渡邊 由紀子

同 北原 透江  
同 黒岩 延峰  
同 福田 有史

同 秋山 泰三  
同 彌永 光弘  
同 岩崎 フミ子

同 鐘江 守  
同 金子 泰大  
同 北島 正晴

同 古賀 重年  
同 二ノ宮 啓克  
同 宮崎 靖幸

同 森光 佐一郎  
同 渡辺 徹也  
同 山下 規夫

同 岡山 秀雄  
同 岩野 雄

同 監査役

同

同

同

同

### 高良大社だより

#### 《三が日山内交通規制について》

三が日のご参拝について事故無きよう警察、警備会社また地元消防団や高良大社奉賛青壮年会をはじめ関係各位と打合せ、左図のように山麓の道路について規制が行われます。



山内の駐車場には台数に限りがございます。閉をお使い下さい。

#### 《高良大社神幸祭の斎行について》

平成四年に斎行された「御神期一六〇〇年大祭」の御神幸祭は皆様方ご記憶のことと存じますが、本年神幸祭(おみゆき)として、神輿を奉昇申し上げるべく、左記に大綱を策定致しました。

#### 《高良大社神幸祭 斎行の大綱》

- ① 毎年、秋に斎行  
早朝 高良大社を出発、巡幸の後夕刻に還幸(日帰り行程)
- ② 高良玉垂命神輿一基を奉昇

③ 御井、高良内、山川の三校区を御巡幸

④ 朝妻味水御井神社、高良下宮社、高良内八幡神社、高良御子神社にて駐輿

上記の計画を取り進めると共に、詳細につき順次策定を致します。高良大社の責任役員会、総代会、高良大社崇敬会そして山麓三校区の各義務神社の総代会、更に高良大社奉賛青壮年会、各奉仕団体の方々を中心に『神幸祭実行委員会』を春までに組織し、担ぎ手の確保、神輿・調度品・装束などの修理調製、予算編成や奉賛活動等々の審議を経て斎行の予定です。皆様方には是非とも神幸祭の趣旨を御理解戴き御協力賜ります様御願ひ申し上げます。

### 高良大社崇敬会だより

#### 《平成二十四年度総会のお知らせ》

平成二十四年度総会

三月五日(月)午後四時 開会  
於 ホテルニュープラザ  
久留米市六ツ門町十六ー一

#### 《第二回研修旅行のお知らせ》

平成二十三年は第一回目の高良大社崇敬会主催による研修旅行を実施致し、二月二十五日、二十六日の二日間に亘り二十九名の参加のもと、日本の総氏神とされる伊勢神宮と愛知県熱田神宮を正式参拝致しました。

本年は左記の行程により第二回目を企画致しました。

この旅行は高良大社崇敬会会員のみならず、高良山を敬愛する皆様を対象として参加の募集を致しております。

全国の神社を参拝研修することにより日本の伝統文化を認識すると共に、相互の交流を深め更なる御神威の発揚を希うことを目的として行います。

崇敬会発足後、丸四年が経過し会の運営も軌道に乗り、毎年日帰りまたは宿泊にて企画して参りますので是非とも御参加賜りませう御案内申し上げます。

#### 【第二回企画旅行の日程】

\*日程 五月下旬に行います  
\*行程 大分県国東半島の旅  
高良大社(久留米市発)↓宇佐神宮「正式参拝」↓豊後高田「昭和の町散策」↓石仏めぐり「熊野磨崖仏、富貴寺、両子寺など」

↓高良大社(久留米市着)  
\*会費 後日決定いたします。  
【お問い合わせ】  
高良大社崇敬会事務局  
〇九四二(四三)四八九三  
紀田、本多まで

### 鎮守の杜

●この夏三年ぶりに帰省した。久しぶりに額づく氏神様の境内には高祖父の奉納した石灯籠がある。刻まれたその名前にそっと手を触れてみると何か懐かしさというか込み上げるものを感じた。続いて先祖の奥津城(墓)へ参ると、先の震災で石灯籠が無残な姿で崩れていたのが衝撃であった。今迄ふる里から離れるのに何ら抵抗がなかったが今回ばかりは九州に戻る道すがら、後ろ髪を引張られる思いであった。神主となるべく家を出て十六年。長男としての勤めとは……自問しながらの帰省であった。

●毎年いくつかの霊峯へ登拝させて戴く。毎回重い体重をなんとかせねばと思いつながら……。  
●旧年は災害の多い年でした。更なる復興への祈りを捧げる日々です。

●今年は辰歳。昇り龍となるよう飛躍を願ひ、高良山へ御参り下さい。お待ちしております。

「たまたれ」 通巻二十一号  
平成二十四年一月一日発行

発行者/高良大社社務所

福岡県久留米市御井町一番地  
電話〇九四二一四三ー四八九三  
FAX〇九四二一四三ー四九三六